

最新医療の現場



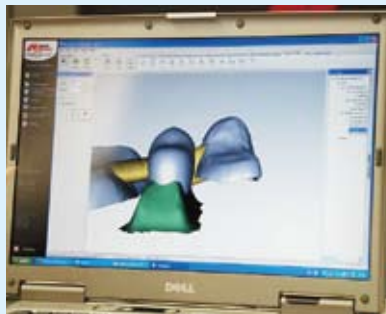
より安全で美しく ジルコニアセラミックを用いた歯の欠損治療

徳島大学病院 歯科長 そしゃく科 市川哲雄 いちかわ てつお

■問い合わせ 歯科外来(審美担当:細木・石田) Tel.088-633-7371

■従来の金歯・銀歯が、ジルコニアセラミック素材に変わる!?

ジルコニアセラミックとは、人工ダイヤモンドに使われる素材です。セラミックは細菌が付きにくく、色が変わりにくい特徴があり、歯茎にも優しい素材です。強度にも優れ、金歯にも劣りません。また、白っぽい色なので、従来の金歯や銀歯だと見た目目立っていたのですが、ジルコニアセラミックを使えば、自分の歯とよくなじみ、とても自然な仕上がりになります。保険適用外ですので、1本10万円程度予算が必要となる見込みです。



▲CAD/CAMコンピュータにて設計中。これに合わせて、機械がクラウンを削っていく。

■CAD/CAMにて義歯を形成

ジルコニアセラミックを用いたクラウン作りは、コンピュータにて行われます。CAD/CAMにより、各個人の歯の形を正確に計測し、設計します。そのコンピュータの指示を元に、機械が正確にジルコニアセラミックを削っていきます。その後、自然な歯の色や形に整える作業を、歯科技工士の手により仕上げていきます。



▲ジルコニアセラミックでブリッジのフレームを作った段階のもの。写真のブリッジは、真ん中の歯が1本不足しているため、それを補うようにブリッジ(橋渡し)状にセラミックフレームを形成したものの。強度のあるジルコニアセラミックだからこそ、このようなブリッジも可能になった。一本歯が抜けてみえるところは、インプラント(人工歯根)が埋入されている。

■欠損治療の選択肢のひとつへ

今まで欠損治療の素材として、金歯、銀歯、金属の入ったインプラントが主に使用されてきましたが、ジルコニアセラミックを歯全体にかぶせる方法が使用されはじめたことをきっかけに、インプラントの歯部分や芯にもジルコニアセラミックが用いられるようになってきました。治療方法は通常の治療とほぼ変わりありません。より審美的で体に優しい素材だということを知った上で、治療方法の選択肢のひとつに加えてください。



▲この写真は、先ほどの患者さんの治療後の状態。フレームは自然の色や形に築盛され、インプラントでなくなっていた歯も補った。